

続 御蔵島の鳥類目録

小木万布

御蔵島観光協会 〒100-1301 東京都御蔵島村 E-mail: kogi@mikura-isle.com

緒言

著者らは 2012 年、それまでに報告されていた御蔵島の鳥類観察記録を精査し、17 目 46 科 140 種の御蔵島鳥類目録を作成した (小木ら, 2012)。その後、新たに加わった初記録と考えられる種を以下に報告する。また、御蔵島鳥類目録を 2012 年に発表された日本鳥類目録改訂第 7 版に準拠させて掲載する。

材料及び方法

変わった鳥や、見たことがない鳥の目撃連絡をうけた際は、可能な限り写真撮影を試みた。写真がない場合でも、種名と発見場所、発見日時が報告されたものは、信頼に足る報告と判断した。鳥類の種判別には、フィールドガイド日本の野鳥増補改訂版 (高野, 2007) を用いた。また分類は日本鳥類目録改訂第 7 版に基づいた。

結果

7 目 17 種を新たに記録した。御蔵島で観察記録のある鳥類は 157 種 (うち外来種 2 種) となった。今回報告する 17 種のうち、9 種は御蔵島観光協会に寄せられた目撃連絡をもとに協会職員が確認したもの、3 種は著者が発見したものであった。残り 5 種は、他の発見者が撮影するなどして報告されたものであった。

カモ目 ANSERIFORMES カモ科 Anatidae

○シノリガモ *Histrionicus histrionicus*

2013 年 1 月 13 日夕方、棧橋付近より東防波堤に向かって飛び立った姿を発見した。東防波堤突端より撮影し、種判別ができた。メス 1 羽であった。2015 年 11 月 26 日午後にも、西川雄市氏による目撃連絡により、東防波堤突端から本種 3 羽を撮影した。



カモ目 ANSERIFORMES カモ科 Anatidae

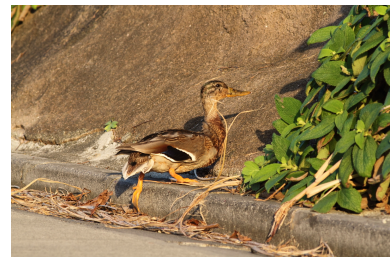
○ビロードキンクロ *Melanitta fusca*

2014年1月17日夕方、栗本一郎氏より、東防波堤湾内で確認できたとの連絡があった。観光協会職員不在だったため、撮影写真はなし。

カモ目 ANSERIFORMES カモ科 Anatidae

○マガモ *Anas platyrhynchos*

初記録は2008年秋、ガイド中の広瀬節良氏によって御代が池で撮影されたつがい1ペアであった。2014年10月30日16時頃にも、タリボウから浜へ下る坂の途中で撮影した。この時は、メス1羽のみであった。



カモ目 ANSERIFORMES カモ科 Anatidae

○マガン *Anser albifrons*

2013年3月11日8時頃、西川雄市氏から「ガンの様な鳥がいる」と観光協会に連絡があった。著者が確認に向かい、ヘリポートで撮影した。この個体は、その後数日間校庭に滞留した。大きく目立つため、島内で話題になり、村民から協会へ複数の連絡があった。滞留期間中、校庭は本個体の糞で一杯になっていた。



カツオドリ目 SULIFORMES カツオドリ科 Sulidae

○アオツラカツオドリ *Sula dactylatra*

2013年7月26日11時頃、横塚根沖にて船上より観察。自船の真上を飛び、島側より南の沖へ向かって飛去した。写真はなし。

ペリカン目 PELECANIFORMES サギ科 Ardeidae

○アカガシラサギ *Ardeola bacchus*

2015年6月17日12時頃、井上愛子氏、外山遼氏より「ふれあい広場付近でカラスに突つかれている見慣れない鳥がいた」との連絡があった。著者が確認に向かい、東防波堤の消波ブロック上で発見した。接近が困難であったため、船上より撮影した。



ペリカン目 PELEVANIFORMES サギ科 Ardeidae

○オオヨシゴイ *Ixobrychus eurhythmus*

2014年9月14日、タリボウ住宅前にて西川智明氏が捕獲し届けられた。撮影後、西川住宅付近にて放鳥。当初ヨシゴイと判定し記載したが、後日、本種であるという指摘を受けた。虹彩にある黒い点が識別のポイントとなった。



チドリ目 CHARADRIIFORMES セイタカシギ科 Recurvirostridae

○セイタカシギ *Himantopus himantopus*

中野・平山(2005)に、2003年8月、御蔵島港にて観察との記述があった。2013年9月11日10時頃、外山遼氏より「校庭に足の長いシギがいる」との連絡があった。著者が確認に向かい、摂餌する本種を撮影した。また、2014年9月9日11時頃にも、校庭で幼虫(おそらく蛾)をついばむ姿を撮影した。



チドリ目 CHARADRIIFORMES シギ科 Scolopacidae

○アカエリヒレアシシギ *Phalaropus lobatus*

2014年9月30日、広瀬希氏が棧橋付近で落鳥していた個体を保護し、観光協会へ持ち込んだ。羽根が骨折しているようであった。撮影後、そのまま棧橋で放鳥した。ミュビシギとして記載後、指摘を受け本種と判定した。



撮影：広瀬希

チドリ目 CHARADRIIFORMES カモメ科 Laridae

○ベニアジサシ *Sterna dougallii*

2014年7月17日14時頃、井上愛子氏より「棧橋に白くて、頭が黒い鳥がいる」と観光協会に連絡があった。著者が確認に向かい、棧橋の街灯に止まる本種を撮影した。



チドリ目 CHARADRIIFORMES カモメ科 Laridae

○ユリカモメ *Larus ridibundus*

2015年11月5日9時40分頃、黒田正道氏より「目の後に黒線がある変わったカモメがいる」との連絡があった。著者が確認に向かい、棧橋東側で撮影した。



チドリ目 CHARADRIIFORMES トウゾクカモメ科 Stercorariidae

○シロハラトウゾクカモメ *Stercorarius longicaudus*

2012年4月25日9時40分頃、三本岳へ向かう途中、御蔵島沖10kmほどの場所で、船上より撮影した。南へ向かって飛去した。

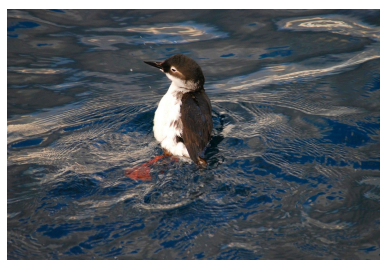


チドリ目 CHARADRIIFORMES ウミスズメ科 Alcidae

○ケイマフリ *Cephus carbo*

2008年1月8日14時頃、西川士朗氏が御蔵島港棧橋にて撮影した。潜水して小魚を追う姿が、数日間に渡り観察された。

撮影：西川士朗



タカ目 ACCIPITRIFORMES タカ科 Accipitridae

○ハチクマ *Pernis ptilorhynchus*

2013年8月25日、環境省自然環境局生物多様センター発行の「平成24年度モニタリングサイト1000海鳥調査報告書」に記載があった。写真はない。

ハヤブサ目 FALCONIFORMES ハヤブサ科 Falconidae

○チゴハヤブサ *Falco subbuteo*

2013年11月8日、来島中の竹市幸恵氏より、長滝山付近での目撃情報が寄せられた。写真はない。

スズメ目 APASSERIFORMES カラス科 Corvidae

○ミヤマガラス *Corvus frugilegus*

2009年秋、栗本敬久氏によって校庭で撮影された。

スズメ目 PASSERIFORMES ヒタキ科 Muscicapidae

○ノゴマ *Luscinia calliope*

2015年9月18日、小木聡美氏が村道黒崎高尾線、西川ダム方向への分岐付近で死亡落鳥個体を発見、採集した。外傷なく、死因は不明。



考察

シノリガモ、ビロードキンクロ、マガモ、マガンといったカモ科の鳥は、本州ではさほど珍しい鳥ではないが、カモ類が好む静水面が少ない御蔵島において観察の機会が非常に少ない。秋から早春にかけての渡りの時期、少数が本島に飛来するものと思われる。ただしマガンは、2013年3月に大島と八丈島でも観察されており（大久保，2015）、八丈島では2012年より毎年観察記録がある（八丈ビジターセンター，2014）。2013年9月28日には、三宅島において一時期に10羽も観察されている（大久保，2015）。三宅島では、アカガシラサギも2006年から断続的に、2009年から2012年にかけて毎年観察記録がある（アカコッコ館，2012）。セイタカシギも、八丈島や三宅島で複数回観察されている。今後、御蔵島での観察も増えるかもしれない。

アオツラカツオドリおよび御蔵島未記録のアカアシカツオドリは、普段島の周りでよく観察できるカツオドリと違い、翼上面も白いため海上で良く目立つ。漁労中の目撃例も多いが、撮影はされておらず、今後の報告が待たれる。

2014年は、熱帯や亜熱帯を中心に分布する南方系5種が相次いで観察された。4月27日にシロハラミズナギドリ、5月5日にアカオネツタイチョウ幼鳥が保護されたのに続き、7月17日にベニアジサシ初記録、7月25日～30日頃にかけてオオグンカンドリ2羽の観察があった（鉄砲場，2014；万丸，2014）。台風8号が、7月5日～9日まで非常に強い勢力を保って北上し、9日九州に上陸後、10日～11日にかけて伊豆諸島の北側を通過している（気象庁，2014）。しかし、この台風が7月末に相次いだ迷鳥の原因となったと考えるには、時期が少し早いようにも思える。その後、台風11号が8月9日四国へ上陸し、10日頃伊豆諸島の一部を暴風圏に巻き込みながら日本海側へ抜けている。8月12日に三宅島で保護され、三宅島初記録となったアカオネツタイチョウは、この台風の影響が示唆されている（内藤ら，2015）。

ミヤマガラスは、栗本敬久氏のまとめていたエッセイに掲載されていた（栗本敬久私信）。文中では小さなハシブトガラスと記載されていたが、サイズとクチバシ基部の特徴からミヤマガラスと判別できた。同氏によると、2011年秋にも校庭で目撃されており、秋に少数渡ってきているのかもしれない。

2012年の報告からの4年間で17種が新たに記録され、御蔵島における記録種数は、19目52科157種となったが、これは興味を持って観察、報告して下さる目が増えてきた成果

であろう。しかしながら、三宅島では 271 種（内藤ら，2015）、八丈島では 287 種（八丈ビジターセンター，2009）と依然 100 種以上の差がある。御蔵島で野鳥に興味を持つ人口が少なかったこと、ビジターセンターのような情報を集積する機関がなかったことが、そのまま記録種数に反映されていると思われる。今後、野鳥の目撃情報への迅速な対応や情報公開を進めるなど、御蔵島観光協会の情報集積機能を高める必要がある。案内所便りや観察会などを通して、野鳥に興味を持つ人口を増やすことが、御蔵島での鳥類記録種数を伸ばすことにつながるだろう。

謝辞

本報告は、情報提供がなければなし得ないものでした。目撃情報を寄せて下さった井上愛子氏、栗本一郎氏、栗本敬久氏、黒田正道氏、小木聡美氏、外山遼氏、西川士朗氏、西川智明氏、西川雄市氏、広瀬節良氏、広瀬希氏、ことば工房 Sachi の竹市幸恵氏に厚く御礼申し上げます。

引用文献

- アカコッコ館ブログ「アカコッコからの手紙」(<http://www.wbsj.org/blog/miyake/date/2012/05.html>)
- 八丈ビジターセンター. 2009. 八丈島で観察された野鳥リスト. pp. 8.
- 八丈ビジターセンターブログ「島の話題・TOPICS」(http://www.hachijo-vc.com/topics/archives/2014/10/post_1155.php)
- 環境省自然環境局生物多様性センター，2013. 平成 24 年度モニタリングサイト 1000 会長調査報告書.
- 気象庁 HP「台風経路図 2014」(http://www.data.jma.go.jp/fcd/yoho/typhoon/route_map/bstv2014.html)
- 小木万布・広瀬節良・伊藤俊一. 2012. 御蔵島の鳥類目録. *Mikurensis* Vol. 1: 57-64
- 万丸ブログ「とりぶろ」(<http://birdblo.blog29.fc2.com/blog-category-1.html>)
- 内藤明紀・大久保香苗・穴原美奈. 2015. 三宅島で新たに記録された野鳥 4 種について. *Miyakensis* Vol. 18:79-82. 三宅島自然ふれあいセンターアカコッコ館研究・事業報告.
- 中野晃生・平山知男. 2005. 伊豆諸島三宅島で観察されたセイタカシギ. *日本鳥学会誌*. 54(2): 108-109.
- 日本鳥学会. 2012. 日本鳥類目録改訂第 7 版. 日本鳥学会. 東京.
- 大久保香苗. 2015. 三宅島のマガンの飛来状況(2013 年)と過去の飛来情報まとめ. *Miyakensis* Vol. 18:55-58. 三宅島自然ふれあいセンターアカコッコ館研究・事業報告.
- 高野伸二. 2007. フィールドガイド日本の野鳥増補改訂版. 財団法人日本野鳥の会発行. 鉄砲場ブログ「鉄砲場日記 2」(<http://teppouba.blog54.fc2.com/blog-entry-1909.html>)

別表：御蔵島鳥類目録 (2016年1月更新)

キジ目	
1	キジ科 キジ
カモ目	
2	カモ科 マカン
3	コハクチョウ
4	オンドリ
5	ヨシガモ
6	ヒトリガモ
7	マガモ
8	カルガモ
9	オナガガモ
10	コガモ
11	キンクロハジロ
12	シロガモ
13	ヒロードキンクロ
ネットアイチョウ目	
14	ネットアイチョウ科 アカオネットアイチョウ
15	シオネットアイチョウ
ハト目	
16	ハト科 カラスハト
17	キジハト
18	アオハト
ミズナギドリ目	
19	アホウドリ科 コアホウドリ
20	クロアシアホウドリ
21	ミスナギドリ科 シロハラミスナギドリ
22	オオミスナギドリ
23	ハシホソミスナギドリ
24	ウミツバメ科 オーストンウミツバメ
カツオドリ目	
25	グンカントリ科 オオグンカントリ
26	カツオドリ科 アオツラカツオドリ
27	カツオドリ
28	ウ科 ウミウ
ペリカン目	
29	サギ科 ヨシゴイ
30	ミソゴイ
31	コイサギ
32	アカガシラサギ
33	アマサギ
34	アオサギ
35	チュウサギ
36	コサギ
37	クロサギ
38	オオヨシゴイ
39	トキ科 クロトキ
ツル目	
40	クイナ科 クイナ
41	ヒクイナ
42	ツルクイナ
43	オオバン
カッコウ目	
44	カッコウ科 ホトトギス
45	ツツドリ
46	カッコウ
ヨタカ目	
47	ヨタカ科 ヨタカ
アマツバメ目	
48	アマツバメ科 アマツバメ

チドリ目	
49	チドリ科 ムナグロ
50	コチドリ
51	オオメダイチドリ
52	セイタカシギ科 セイタカシギ
53	シギ科 ヤマシギ
54	アオシギ
55	チュウシャクシギ
56	アオアシシギ
57	クサンシギ
58	タカフシギ
59	キアシシギ
60	イソシギ
61	キョウジョシギ
62	アカエリヒレアシシギ
63	ツバメチドリ科 ツバメチドリ
64	カモメ科 クロアシサシ
65	ミツユビカモメ
66	ユリカモメ
67	ウミネコ
68	カモメ
69	セグロカモメ
70	コアシサシ
71	ベニアシサシ
72	トウゾクカモメ科 シロハラトウゾクカモメ
73	ウミスズメ科 ケイアフリ
74	カンムリウミスズメ
タカ目	
75	ミサコ科 ミサコ
76	タカ科 ハチクマ
77	トビ
78	オジロワシ
79	ツミ
80	ハイタカ
81	オオタカ
82	サンバ
83	ノスリ
84	フクロウ科 オオコノハズク
85	アオハズク
86	コミミスク
サイチョウ目	
87	ヤツガシラ科 ヤツガシラ
ブッポウソウ目	
88	カワセミ科 アカショウビン
89	ヤマショウビン
90	カワセミ
キツツキ目	
91	キツツキ科 アリスイ
92	コケラ(ミヤケコケラ)
ハヤブサ目	
93	ハヤブサ科 チョウゲンボウ
94	チゴハヤブサ
95	ハヤブサ
スズメ目	
96	カササギヒタキ科 サンコウチョウ
97	モズ科 モズ
98	カラス科 ミヤマカラス
99	ハシホソカラス
100	ハシブトカラス

101	キクイタダキ科 キクイタダキ
102	シジュウカラ科 ヤマガラ(オーストンヤマガラ)
103	シジュウカラ
104	ヒバリ科 ヒバリ
105	ツバメ科 ショウトウツバメ
106	ツバメ
107	コシアカツバメ
108	イワツバメ
109	ヒヨドリ科 ヒヨドリ
110	ウグイス科 ウグイス
111	ヤブサメ
112	ムシクイ科 エゾムシクイ
113	イイジママシクイ
114	メジロ科 メジロ(シチウメジロ)
115	センニュウ科 ウチヤマセンニュウ
116	ヨシキリ科 オオヨシキリ
117	レンジャク科 キレンジャク
118	ヒレンジャク
119	ミソサザイ科 ミソサザイ(モスケミソサザイ)
120	ムクドリ科 キンムクドリ
121	ムクドリ
122	コムクドリ
123	ヒタキ科 マミジロ
124	トラツグミ
125	シロハラ
126	アカコッコ
127	ツグミ
128	コマドリ(タネコマドリ)
129	ノゴマ
130	コルリ
131	ジョウビタキ
132	ヒタキ
133	イソヒヨドリ
134	コサメビタキ
135	キビタキ
136	オオルリ
137	スズメ科 スズメ
138	セキレイ科 キセキレイ
139	ハクセキレイ
140	セグロセキレイ
141	ヒンズイ
142	ムネアカタヒバリ
143	タヒバリ
144	アトリ科 アトリ
145	カワラヒワ
146	マヒワ
147	ベニマシコ
148	イスカ
149	ウソ
150	イカル
151	ホオジロ科 ホオジロ
152	カシラダカ
153	ノジコ
154	アオジ
155	クロジ
外来種	
156	キジ目 コジュケイ
日本鳥類目録外種	
157	オウム目 ルリコンゴウ